

山形県社会福祉事業団広報紙

かさぐるま

ひと 未来 輝いて

2009 October

NO. 86



ワークショップ明星園 生活介護事業所
岡崎 津恵子さん作

特集

平成21年度山形県社会福祉事業団事業計画・5つの注目ポイント

松濤荘 その後 ～ユニットケアの充実に向けて～

平成21年度役員の紹介

平成21年度山形県離転職者職業訓練清掃業務科第1期目を終えて

レキシコン 増え続ける介護サービス受給者

平成20年度 社会福祉法人山形県社会福祉事業団事業・決算報告

セミナー・研修会情報 第9回自閉症療育者研修「すずらん塾」

福祉施設等就労支援セミナー 2009「地域生活支援セミナー IN庄内」

平成21年度山形県社会福祉事業団事業計画

●●●5つの注目ポイント!!●●●

平成21年度がスタートし、早7か月が経過しようとしています。
 特集では、「平成21年度山形県社会福祉事業団」事業計画の中で、
 ポイントとなる5つの取組みについて報告いたします。



注目ポイントその1 サービス管理責任者研修等に係る事業

障害者自立支援法の施行を受け、平成18年度からスタートしたサービス管理責任者研修等は、これまで山形県が直接主催・運営を実施してきましたが、平成21年度から当法人が委託を受け研修運営を行うことになりました。(主催はこれまで同様に山形県です。)

研修は、大きく3つの研修に分かれており、その事業内容と目的は下表のようになっています。

●研修名と事業概要

研修名	事業概要
サービス管理責任者研修 (11月～12月実施予定)	障害者自立支援法の適切かつ円滑な運営を行うため、サービスの質の確保に必要な専門知識と技術を有するサービス管理責任者を養成する。
障がい者相談支援従事者研修 (すでに修了)	地域の障がい者等の意向に基づく地域生活を実現するため、総合的かつ適切な利用支援等の援助技術の習得や、日常の相談支援業務の検証を行うことにより、相談支援に従事する者の資質の向上を図る。
行動援護従事者養成研修 (2月実施予定)	知的障がい又は精神障がいにより、行動上著しい困難を有する障がい者等であって常時介護を要するものにつき、当該障がい者等が行動の際に生じる危険を回避するために必要な援護、外出時における移動中の介護等に関する知識及び技術を習得することを目的とする。

●研修内容と研修期間

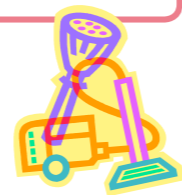
日程	サービス管理責任者研修					障がい者相談支援従事者研修			行動援護従事者養成研修			
	介護	地域生活(知・精)	地域生活(身)	児童	就労	初任者研修	特別研修	現任研修				
3日	講義1日、演習2日(各分野)					5日	講義2日 演習3日	1日又は2日 (講義のみ)	3日	講義1日 演習2日	3日	講義1日 演習2日

注目ポイントその2 山形県離転職者職業訓練事業

この訓練事業は、山形県立山形職業能力開発専門校からの委託により実施している「障がい者対象委託訓練事業」で、今年度は2つの事業を行っています。

特に、みやま荘で行う「清掃業務科」は初めての訓練科目であり、訓練終了後の就労先の拡大に向けて期待がかかる事業となっています。

これまで訪問介護員養成科(2級・3級)29人、調理サービス科(昨年度まで泉荘で実施)17人の方が修了されています。



●訓練事業名と事業概要

訓練事業名	事業概要
訪問介護員養成科2級課程 会場: 緑町会館(講義) 介護学習センター(演習) (いずれも山形市)	障がいを持つ離転職者を対象に、障がい者の就職及び適切な訪問介護の促進を図ることを目的に実施する。 知的障がい者を対象に2級課程(2か月)を1期、定員5人で実施する。 (すでに5月～7月での期間で修了しています。)
清掃業務科 会場: 救護施設みやま荘(河北町)	障がいを持つ離転職者を対象に、福祉施設での清掃の機能を活用し、清掃業務の基礎的な知識・技術を習得し、就職の促進を図る。 知的障がい者及び精神障がい者を対象に、それぞれ1期(2か月)、定員各2人で実施する。

注目ポイントその3 ふるさと雇用再生特別交付金に係る事業

この事業は、「山形県工賃倍増5か年計画」に定める目標工賃達成のため、新たな市場開拓を担う就労支援助手を配置し、障害者の就労・職場実習先の確保や就労系福祉サービス事業所の受注拡大に繋がる支援を行う事業で、平成21年度から23年度までの3か年事業となっています。

配置場所等は、下表のようになっています。

●配置事業所名と配置人数

配置事業所名	平成21年度	平成22年度	平成23年度	合計
村山障害者就業・生活支援センター	4人	4人	4人	12人
置賜障害者就業・生活支援センター	4人	4人	4人	12人
庄内障害者就業・生活支援センター	4人	4人	4人	12人

注) 県内3か所の障害者就業・生活支援センターに、年度ごと各4人(2人で1組)を配置
 庄内障害者就業・生活支援センターには、上記事業とは別に、雇用安定担当として今年度新たに職員が1人加配されています。

注目ポイントその4 グループホーム・ケアホームの拡充

当法人では、施設を利用されている方々の希望をかなえるため、地域生活移行を積極的に推進してきました。今年度も新たに8か所のグループホーム・ケアホーム住居の開設を予定しています。



●平成21年度の開設予定事業所

開設予定事業所	内容
吹浦荘遊佐共同生活事業所	遊佐町内に1か所、定員4人
慈丘園共同生活事業所	鶴岡市内に1か所、定員5人
希望が丘米沢共同生活事業所	米沢市内に2か所、定員4人と5人
ワークショップ明星園共同生活事業所	山形市内に1か所、定員4人

注) 希望が丘米沢共同生活事業所は、10月15日に住居(2か所)を開設しています。

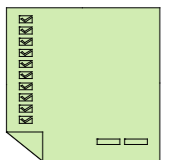
●グループホーム・ケアホームの設置状況(平成21年7月1日現在)

	知的障がい者			精神障がい者			合計			備考
	箇所数	総定員	利用者数	箇所数	総定員	利用者数	箇所数	総定員	利用者数	
GH	2	12	12	7	34	33	9	46	45	平成17年～20年の4年間で住居数が28か所増え、144人の方が地域生活に移行しています
CH	6	27	26				6	27	26	
一体型	29	142	139				29	142	139	
合計	37	181	177	7	34	33	44	215	210	

注目ポイントその5 次期経営計画の策定

平成21年度の経営方針の中で、特に重要なポイントとなるものが「第二期経営計画～新たな事業展開と安定経営に向けて～」です。現在、事務局内にプロジェクトを設け、これまでの「中期経営計画に基づく5か年実行計画」の検証を行うとともに、平成23年度からの新事業体系への移行及び次期指定管理の獲得を見据えた「第二期経営計画(平成23年度～平成27年度)」の策定に着手しています。

新たな事業展開に対応した施設機能の確立、良質なサービスの提供と人材の確保・育成、居住環境の整備、組織・職員配置と業務ガイドライン、雇用制度や給与制度、事業収支状況など、様々な課題を踏まえながら、年内の策定を目指し作業を進めています。



松濤荘その後

～ユニットケアの充実に向けて～

松濤荘 援助主査兼生活相談員 高橋 千春

今年4月1日、築40数年の旧施設から引っ越しが行われ、多くのご家族やボランティアの方々のご協力をいただき無事終了しました。

新しい生活がスタートし、利用者の方も職員も無我夢中で過ごしてきた半年であったように感じます。ようやく、皆様の生活も落ち着き、ユニット毎に少しずつ特色が出てきはじめています。リビングの雰囲気作りをした



り、流しそうめんをしたり、ケーキや笹巻き作りを行ったりと、一緒に楽しみながらできる活動も増えてきました。

また、これまでの6～7人部屋から、個室または2人部屋になったことで、ご家族の面会も増え、お部屋からは楽しそうな笑い声が聞こえてきます。職員との関わりでも、密になったことにより、いっそう信頼関係や馴染みの関係づくりができ、生活そのものに潤いがでてきているようです。当初一人で寂しいという声が多く聞かれ



ましたが、今はプライベートな時間と空間を持つことによって、利用者の方同士の関係も良好に保っているようです。

「ユニットケア」とは、少人数で馴染みの関係を作りながら、より家庭に近い環境で生活を営んでいくことでもあります。現在、その人らしい部屋作りの取り組みを行っています。ご家族の方からご協力をいただきながらレイアウトを変え、自宅で暮らしていた時に使っていた家具や身の回りの物、部屋に飾っていた絵などを中心に住環境を整えています。なによりも、本人が落ち着いて生活できる個性豊かな空間作りを目指しています。

今後も利用者の方の視点でのケアを重視し、ご家族の方と施設が協力をしながら、一人ひとりを支えていける体制作りを目標に進進してきたいと思っています。



平成21年度 役員及び評議員

■理事・監事

職名	氏名	現職
理事長	佐竹 榮一	
常務理事	服部 信悟	
理事	會田 鋭一郎	県社会福祉協議会会長
理事	前川 孝子	学識経験者
理事	富田 晋吾	医師
理事	山川 孝	弁護士
理事	黒田 忠夫	総合窓口ニ一希望が丘所長
監事	今井 眞哉	やまがた農業支援センター専務理事
監事	上村 恒夫	県観光物産協会常務理事

■評議員

氏名	現職
梅木 欣一	県精神保健職親会連合会会員
阿部 恭慈	県高齢・障害者雇用支援協会事務局長
菊地 直	川西町社会福祉協議会会長
松本 顯雄	河北町社会福祉協議会会長
池田 豊	遊佐町社会福祉協議会常務理事
松田 昭裕	山形県社会福祉協議会事務局長
阿曾 友弥	学識経験者
渡辺 和子	学識経験者
井上 信二	希望が丘父兄会連合会会長
堀川 秀雄	利用者代表
土田 ゆり	利用者代表
平吹 佐内	大寿荘長
重吉 正文	泉荘長
伊藤 齊	慈丘園長
渡部 幸広	鶴峰園長

障がい者対象訓練

～清掃業務科I期を終えて～

みやま荘 援助主査 今野 博子

平成21年9月23日から救護施設みやま荘で始まった、初の「山形県離職者訓練事業（障がい者対象訓練）清掃業務科」I期目は、9月17日に全日程を終えました。研修生のTさんとSさんは、緊張しながらも晴れやかな顔で修了証を受け取りました。真夏の長丁場の訓練でしたので、疲れが見えることもありましたが、お二人は、お互い支え合いながらほとんど休まず乗り切り、この科の栄える卒業第1号、第2号となりました。この訓練事業は、I期目の対象は精神障がい者です。目的は、清掃という技能訓練とともに、障がい特性でもある生活のリズムづくりや、対人関係能力、職場での集中力・持続力・判断能力などの障がいの回復と能力向上を図り、就労意欲に結び付けることです。

さて、今回は初めての事業であり、清掃という難しい分野のため、研修生の戸惑いはもちろんですが、担当のみやま荘でもどう進めていったらいいのか手探りの中突入しました。講義は清掃のテキストや各講師が工夫し作成したレジュメや教材を使用して行いました。社会人マナーでは、挨拶のしかたから始まり、健康管理②（障がい疾病）では、自分自身の病気を理解し、病気と向き合いました。実習では講師の経験も多に発揮しながら、また実習先として、特別養護老人ホーム大寿荘のご協力もいただき実施してきました。

清掃が得意で好きだという人は少ないかと思えます。



その中で、研修生にいかにも目的意識を持って受講してもらうかは大きな課題でした。講義で「清掃が行き届くことで、感染性の病気が減り、寿命も延びてきた、そして建物もきれいに手入れすることで、建物寿命も延びる」と聞いた彼らは、掃除の意義を強く感じ、意欲も増したと語ってくれました。そして何よりも、きれいに掃除してくれた事に利用者や職員からかけられるお礼と労いの言葉が毎日の彼らのやる気の原動力になったようでした。一方、研修生が清掃でがんばっている姿を見て、刺激を受けたみやま荘の利用者も多くいます。

TさんとSさんは、清掃技術取得とともに2か月間やり遂げたことで力をつけ、自分への自信を強くしたはずで、次のステージでお二人が力強く前進していくことを心から願っています。

レキシコン

増え続ける介護サービス受給者

【レキシコン】
lexicon: キリシヤ語・ラテン語・ヘブライ語の辞典。

厚生労働省は、7月30日に2008年度の「介護給付費実態調査結果の概況」を発表した。これによると、サービス利用者は451万人を越え過去最高を記録している。同時に受給者一人当たりの費用額も15万円を超え、前年度比較で千円以上増加している。

受給者の状況を見ると、通所利用者は3%の増となり、一方で訪問系は4%の減となっている。また施設サービスでは全体が0.5%（5,100人）の増であり、内訳は介護老人福祉施設が2.5%の増、介護老人保険施設が1%増の反面、介護療養施設は8.9%の減であり、これは平成23年度未だに予定されている介護療養病床の廃止が大きな要因と見られている。

受給者一人当たりの介護サービスの費用は181,200円で、一年間の費用額は6兆3586億円、介護予防サービスは一人当たり費用額は39,700円で、年間3,788億円を超

えている。

施設サービス費の受給者一人当たり費用額は、介護老人福祉施設が264,800円となっている。

都道府県別に見た受給者一人当たり費用額では、介護サービスでは高知県が最も多く、次いで沖縄県、石川県で最も低いのは岩手県で、山形県を含め東北は全国平均よりも低い実態である。

介護保険制度が着実にサービスとして定着している反面、増え続けるサービス利用は、同時に費用の増大を伴うため、今後の被保険者の範囲や保険料の見直し、税負担割合の検討など多くの課題を惹起しているのも事実である。

今後の人口構成や社会保障制度のあり方も連動することから、費用負担を含め制度見直しのための議論が大切であり、国民共通の認識が必要である。

平成20年度 社会福祉法人山形県社会福祉事業団事業報告

平成20年度は、利用者の権利擁護と個人の尊厳に基づく自立支援や社会参加を推進していくことを経営理念のトップに掲げ、利用者や地域からの信頼と安心の獲得を目指し、指定管理者制度による県立施設の経営や特別養護老人ホームの自主経営、指定障害福祉サービスや相談支援、指定居宅サービス事業所や指定居宅介護支援事業所の運営にあたった。

また、事業団にとって初めての改築事業として、県や遊佐町の補助金を活用しながら、特別養護老人ホーム松濤荘をユニット型特別養護老人ホーム（一部従来型）を改築し、入居される方々が快適で家庭的な雰囲気の中で生活ができるよう環境を整備するとともに、その人らしい個別ケアを受けることができるよう支援体制を整えた。

法人経営の安定化にあたっては、昨年に引き続き平成16年度策定の「中期経営計画に基づく5か年実行計画」に基づき、経営の効率化及び円滑な業務執行体制等の確立に向けた経営改革を推進するとともに、平成23年度からの次期指定管理の獲得や障がい者施設（事業所）における新たな事業体系への移行を視野に入れながら、次期経営計画の策定等の準備を進めた。

また、松濤荘の改築も踏まえ、計画的な人材の確保と育成を目的に、職員採用試験を実施するとともに、一般職から総合職への登用試験も実施した。

なお、福祉制度や経営環境の変化に対応できる組織体制を確立するため、組織や施設の課題を整理するとともに、業務ガイドラインの策定や研修体系の見直しを通して組織性の向上や職場活性化に向けた検討を進めた。

各施設の運営にあたっては、社会福祉法や介護保険法、障害者自立支援法及び関係法令の規定を遵守するとともに、サービス評価や苦情解決、リスク管理等の各委員会を活用し、質の高いサービスの提供や業務の改善を推進した。

また、施設利用者の地域生活移行を推進するため、重度の障がい者も含め地域での生活実習や日中活動支援に取り組むとともに、庄内・村山・置賜地区にコーディネーターを配置し、知的障がい者施設を対象とした地域生活移行を推進するための強化事業を実施した。共同生活介護事業所及び共同生活援助事業所は昨年より2つ増え10か所、住居数は1年間で8つ増え45か所であり、利用定員も44人増の215人となっている。

なお、市町村の地域生活支援事業である相談支援事業所や地域活動支援センター、日中一時支援事業や移動支援事業所については、各自治体からの委託契約に基づき事業を実施し、地域・在宅福祉に対する貢献を図った。また、要介護認定調査や障害程度認定調査についても一部の施設で実施している。

福祉人材の育成に関しては、事業団の持つノウハウや人材を活用して、各事業所でセミナー等を実施したほか、山形県からの委託による研修を行った。

具体的には、認知症介護研修関係では、実践者研修及び管理者研修を各2回、小規模多機能型サービス等計画作成担当者研修、実践リーダー研修及び認知症対応型サービス事業開設者研修をそれぞれ1回ずつ実施し、福祉事業経営者及び実践者の育成を図った。

また、障がい者の雇用促進を図るため、昨年に引き続き障害者対象委託訓練事業として、知的障がい者対象の訪問介護員養成研修（3級）を1回実施するとともに、調理サービス科を泉荘で3回実施した。

平成20年度 決算

1. 財産目録

平成21年3月31日現在

資産の部		負債の部	
内 訳	金 額	内 訳	金 額
1 流動資産	円	1 流動負債	円
現金	397,680	短期運営資金借入金	245,500,000
預金	717,722,859	未払金	1,230,139,706
商品・製品	3,963,998	預り金	29,380,357
仕掛品	1,308,720	前受金	55,000
原材料	1,936,852	流動負債合計	1,505,075,063
未収金	1,269,119,544		
立替金	477,961		
前払金	590,910		
短期貸付金	245,500,000		
仮払金	36,960		
流動資産合計	2,241,055,484		
2 固定資産		2 固定負債	1,389,240,988
(1) 基本財産		設備資金借入金	746,000,000
建物	199,870,205	長期預り金	2,765,000
土地	52,713,248	退職年金共済引当金	640,475,988
基本財産特定預金	10,000,000		
減価償却累計額 △	80,147,099		
基本財産合計	182,436,354		
(2) その他の固定資産			
建物	1,181,956,230		
構築物	699,300		
機械及び装置	890,850		
車輛運搬具	51,040,987		
器具及び備品	598,198,522		
建設仮勘定	2,415,000		
減価償却累計額 △	567,082,953		
その他の積立預金	284,362,369		
退職年金共済預け金	640,475,988		
その他の固定資産	68,857,597		
その他の固定資産合計	2,261,813,890		
固定資産合計	2,444,250,244	負債合計	2,894,316,051
資産合計	4,685,305,728	差引純資産	1,790,989,677

2. 貸借対照表

平成21年3月31日現在

資産の部		負債の部	
内 訳	金 額	内 訳	金 額
流動資産	241,055,484円	流動負債	1,505,075,063円
現金	397,680	短期運営資金借入金	245,500,000
預金	717,722,859	未払金	1,230,139,706
商品・製品	3,963,998	預り金	29,380,357
仕掛品	1,308,720	前受金	55,000
原材料	1,936,852		
未収金	1,269,119,544		
立替金	477,961		
前払金	590,910	固定負債	1,389,240,988
短期貸付金	245,500,000	設備資金借入金	746,000,000
仮払金	36,960	長期預り金	2,765,000
固定資産	2,444,250,244	退職年金共済引当金	640,475,988
(1) 基本財産			
建物	199,870,205		
土地	52,713,248		
基本財産特定預金	10,000,000		
減価償却累計額 △	80,147,099		
(2) その他の固定資産	2,261,813,890		
建物	1,181,956,230		
構築物	699,300		
機械及び装置	890,850		
車輛運搬具	51,040,987		
器具及び備品	598,198,522		
建設仮勘定	2,415,000		
減価償却累計額 △	567,082,953		
その他の積立預金	284,362,369		
退職年金共済預け金	640,475,988		
その他の固定資産	68,857,597		
資産の部合計	4,685,305,728		
		負債の部合計	2,894,316,051
		国庫補助金等特別積立金	268,846,154
		国庫補助金等特別積立金	268,846,154
		その他積立金	284,362,369
		その他積立金	284,362,369
		次期繰越活動収支差額	1,237,781,154
		次期繰越活動収支差額	1,237,781,154
		(うち当期活動収支差額	130,022,645
		純資産の部合計	1,790,989,677
		負債及び純資産の部合計	4,685,305,728

3. 資金収支計算書

(自)平成20年4月1日
(至)平成21年3月31日

勘定科目	決算額
【経常活動による収支】	円
介護保険収入	1,616,535,817
自立支援費等収入	2,154,791,614
利用料収入	107,532,533
措置費収入	312,446,422
私的契約利用料収入	7,449,777
負担金収入	27,054,045
交付金収入	76,850,400
授産事業収入	41,234,316
営業収入	72,023,261
医薬収益	98,883,946
助成金収入	1,801,960
補助事業等収入	115,349,121
経常経費補助金収入	1,759,103,697
寄附金収入	245,000
雑収入	346,979,814
受取利息配当金収入	241,751
会計単位間繰入金収入	80,570,895
経理区分間繰入金収入	563,632,000
経常収入計(1)	7,382,726,369
人件費支出	4,597,662,362
事務費支出	731,341,413
事業費支出	1,086,632,755
年金共済契約金交付金積立金支出	27,054,045
年金共済契約給付金	76,850,400
授産事業費	41,234,316
利用者負担減免額	1,196,275
借入金利息支出	6,023,399
会計単位間繰入金支出	80,570,895
経理区分間繰入金支出	563,632,000
経常支出計(2)	7,212,197,860
経常活動資金収支差額(3)=(1)-(2)	170,528,509
【施設整備等による収支】	
施設整備等補助金収入	270,000,000
固定資産売却収入	10,000
施設整備等収入計(4)	270,010,000
固定資産取得支出	1,148,752,272
施設整備等支出計(5)	1,148,752,272
施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)	△ 878,742,272
【財務活動による収支】	
借入金収入	746,000,000
積立預金取崩収入	164,222,000
その他の収入	49,279,073
財務収入計(7)	959,501,073
積立預金積立支出	38,799,642
流動資産評価減等による資金減少額等	
その他の支出	33,991,605
財務支出計(8)	72,791,247
財務活動資金収支差額(9)=(7)-(8)	886,709,826
予備費(10)	
当期資金収支差額合計(11)	178,496,063
= (3)+(6)+(9)-(10)	
【資金残高】	
前期末支払資金残高(12)	550,274,788
当期末支払資金残高(11)+(12)	728,770,851

4. 事業活動収支計算書

(自)平成20年4月1日
(至)平成21年3月31日

勘定科目	決算額
【事業活動収支の部】	円
介護保険収入	1,616,535,817
自立支援費等収入	2,154,791,614
利用料収入	107,532,533
措置費収入	312,446,422
私的契約利用料収入	7,449,777
負担金収入	27,054,045
交付金収入	76,850,400
授産事業収入	41,234,316
営業収入	72,023,261
医薬収益	98,883,946
助成金収入	1,801,960
補助事業等収入	115,349,121
経常経費補助金収入	1,759,103,697
寄附金収入	245,000
雑収入	346,979,814
引当金戻入	47,603,597
国庫補助金等特別積立金取崩額	1,153,846
事業活動収入計(1)	6,787,039,166
人件費支出	4,597,662,362
事務費支出	731,341,413
事業費支出	1,086,632,755
年金共済契約金交付金積立金支出	27,054,045
年金共済契約給付金	77,939,924
授産事業費	41,234,316
減価償却費	54,678,524
引当金繰入	33,991,605
たな卸資産増減額	▲ 1,357,692
利用者負担減免額	1,196,275
事業活動支出計(2)	6,650,373,527
事業活動収支差額(3)=(1)-(2)	136,665,639
【事業活動外収支の部】	
受取利息配当金収入	241,751
会計単位間繰入金収入	80,570,895
経理区分間繰入金収入	563,632,000
事業活動外収入計(4)	644,444,646
借入金利息支出	6,023,399
会計単位間繰入金支出	80,570,895
経理区分間繰入金支出	563,632,000
事業活動外支出計(5)	650,226,294
事業活動外収支差額(6)=(4)-(5)	△ 5,781,648
経常収支差額(7)=(3)+(6)	130,883,991
【特別収支の部】	
施設整備等補助金収入	270,000,000
固定資産売却収入	10,000
特別収入計(8)	270,010,000
国庫補助金等特別積立金積立額	270,000,000
固定資産売却損・処分損(売却原価)	871,346
特別支出計(9)	270,871,346
特別収支差額(10)=(8)-(9)	▲ 861,346
当期活動収支差額(11)=(7)+(10)	130,022,645
【繰越活動収支差額の部】	
前期繰越活動収支差額(12)	982,336,151
当期末繰越活動収支差額(13)=(11)+(12)	1,112,358,796
基本金取崩額(14)	
基本金組入額(15)	
その他の積立金取崩額(16)	164,222,000
その他の積立金積立額(17)	38,799,642
次期繰越活動収支差額(18)	
= (13)+(14)-(15)+(16)-(17)	1,237,781,154

セミナー・研修会情報

第9回自閉症療育者研修「すずらん塾」

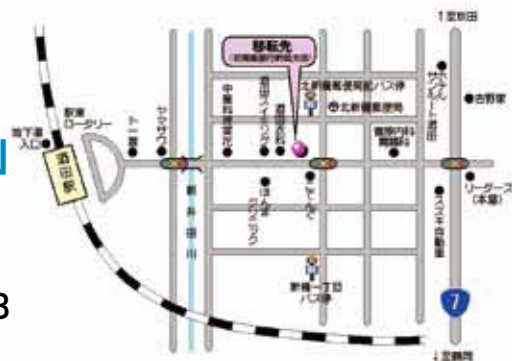
- 開催日/平成21年10月31日(土)9:30~16:20
- 会場/米沢市伝国の杜置賜文化ホール大会議室(米沢市丸の内一丁目2番1号 電話0238(26)2666)
- 内容/テーマ『ライフステージに沿った支援』を考える
講演Ⅰ「事例からみる課題と支援」講師: 山形県立保健医療大学 教授 佐竹 真次氏
講演Ⅱ「成人期に向けた準備とかかわり」
講師: 横浜やまびこの里 東やまた工房・東やまたレジデンス 施設長 関水 実氏
- 参加費/山形県自閉症協会会員の方:500円 会員以外の方:1,000円
- お問い合わせ/総合コロニー希望が丘しらすさ寮(担当:大山、菅) 電話:0238(46)3101

福祉施設等就労支援セミナー
2009「地域生活支援セミナーIN庄内」

- 開催日/平成21年11月7日(土)10:00~15:30
- 会場/酒田市ひらたタウンセンター シアターOZ(酒田市飛鳥字契約場35 電話0234(52)3911)
- 内容/[セッション] 「現場実習支援の会20年の軌跡・そしてこれから… ~学校企業間の取り組み~
[シンポジウム] 「働く」「働き続ける」を当たり前、そして共に一人ひとりが
元気に働き生活していくための支援を考える
- 参加費/無料
- お問い合わせ/庄内障がい者就業・生活支援センターかでのる/指定相談支援事業所サポートセンターあおぞら
(担当:伊澤・小鷹)電話:0234(24)1236

平成21年11月1日より
「庄内障がい者就業・生活支援センターかでのる」
「指定相談支援事業所サポートセンターあおぞら」
が移転します。

移転先:
〒998-0865 酒田市北新橋一丁目1番地18
電話・FAX番号は変更はございません。



源泉かけ流しの温泉で

ゆったりのおんびり疲れを癒すここは湯の里

寿海荘

手作り料理にきつと満足!

1泊2食付き 老人(60歳以上)・
母子(寡婦)・身障者の方

5,210 (税込)円より

- ◎お盆・正月も関係なく1年間同じ料金です。
- ◎マイクロバスでの送迎等のご相談を承ります。

HPも発信中

寿海荘ホームページアドレス <http://www.jyukaiso.jp/> ご意見・苦情はメール info@jyukaiso.jpまでお願い致します。

山形県福祉休養ホーム
あつみ温泉 寿海荘

〒999-7204 山形県鶴岡市湯温海字湯之里88-1

TEL:0235-43-4173



イベント舞蹈、歌謡上演会



源泉かけ流し

《11月からのイベントのご案内》

月日	イベント	目的	講師名
11月19日	健康運動実践講座	健康増進の実践・相談	松海荘主任援助員 富樫 伸
12月17日	音楽療法実践講座	利用者のリラックス セッション	吹浦荘総括援助専門員 池田 明子
1月28日	第2回カラオケのタベ	利用者同士の交流	事業団OB 高橋 宣則
2月18日	リハビリ講座	リハビリの実践・相談	松海荘理学療法士 後藤 里史
3月11日	第3回舞踊・歌謡の鑑賞	舞踊・歌謡の鑑賞	ボランティアサークル なごみ